

第3回洞爺湖町教育行政審議会（会議録）

日 時：令和6年6月28日 金曜日 午後2時30分～午後4時00分

場 所：洞爺湖町役場3階 第2委員会室

出席委員：◎会長 ○副会長

区 分	氏 名	出欠	区 分	氏 名	出欠
1号委員 (学校教育)	内山 勇一	○	4号委員 (教育有識者)	◎鈴木 淳	○
	横山 慎二	○		○上林 宏文	○
	千葉 佳貴	×	5号委員 (公共的団体)	福島 正和	○
2号委員 (社会教育)	木村 省平	○		秋山 伸吾	○
	泰地 ひとみ	○		田伏 ひとみ	○
	京谷 常美	×		三浦 和則	○
	宍戸 一江	○		宮本 好	○
	佐々木 小代子	○		佐藤 義昭	○
	川上 由起子	○	6号委員 (公募)	浅利 弘樹	○
3号委員 (保護者)	白井 隆子	○		國井 一宏	○
	長谷川 尊裕	○		高久 裕子	○
	高橋 洋一	×			
	折原 亜紀	×			
	傳 尚邦	○			

(事務局)： 教育委員会 山本教育指導参与

教育推進課 細江課長

大楽係長

社会教育課 角田課長

○山本教育指導参与

それでは、令和6年度第3回洞爺湖町教育行政審議会を開催いたします。

初めに、このたび4月の人事異動によって事務局の体制が変わりましたので、紹介させていただきます。

まず初めに自分なんですけども、今年の4月にですね、洞爺湖町教育委員会教育指導参与ということで着任いたしました山本恵一郎と申します。どうぞよろしくお願いいたします。一昨年度まで虻田中学校で勤務しておりました。その2年間の間、PTAはじめ、町のPTA連合会、また青少年健全育成会をですね、地域の見守りや町教研の文化センターでの展示等々、地域の方々に支えられて2年間過ごすことができました。この度、このご縁をいただいて教育環境の整備はもとより、教育のその方法、内容も含めて皆様とともに取組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○細江教育推進課長

4月に教育推進課の方に異動になりました細江と申します。

どうぞよろしくお願いいたします。

○山本教育指導参与

それでは次第に沿って進めさせていただきます。

会議次第3、会長挨拶。鈴木会長よろしくお願いいたします。

○鈴木会長

改めましてこんにちは、会長の鈴木と申します。新しく内山校長が加わって新たなメンバー、そして事務局の方も変わりましたので、新体制で今年度1回目の会議という形になると思います。通算では3回目ですけども、前回2月に内容をいろいろやり取りしながら、今年度はこの審議会が問われている諮問を、教育長から受けた部分の答申の内容を整理していくという形が大きな流れになるかなと思います。その説明が本日この後事務局の方からあるかと思いますが、ぜひですね、皆さんそれぞれの経験値の中でですね、いろんな忌憚のないお話をいただきながら、洞爺湖町の子どものために、もっと言えば役所のためにですね、ぜひいろんな形でこういう意見等いただければありがたいと思いますので、よろしくお願いいたします。本日、短い時間ですけども流れに沿って進めてまいりたいと思いますので、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。

それでは早速審議の方に入りたいというふうに思います。それではまず、会議次第の4ですけども(1)と(2)について事務局の方からお願いしたいと思います。資料がそれぞれあるかと思いますが、それを見ながらということで事務局の方よろしくお願いいたします。

#### ○山本教育指導参与

お手元の資料をご確認ください。今日の目標、目当てっていう部分で現状と課題ということで前回までの資料で児童生徒の推移であったりとか、学校及び教育関連施設の状況、また町の情勢の状況ということで確認をしていると思います。本日なんですけども、各種計画上の位置づけと、これまでの経緯ということをご説明いたします。それをもとにですね、答申案ということは今ちょっと事務局案ということでお諮りをしていただいて、今後の審議の方向性や流れについて、ということで繋げていければなというふうに思っておりますのでよろしくお願いします。

次のページになりますけども、答申案ということで、洞爺湖町立学校における特色ある学校づくりと、教育環境の向上に関する総合的な方策ということで、まずはじめに、第1部総論答申案ということで事務局からということで第2回の会議での説明1番の部分ですね、学校教育を取り巻く現状と課題というところで第2回会議で説明済みというところで本日は2番の各種計画における方向性の1番2番、そして4番の部分ですね、そして3のこれまでの経緯ということで1番から4番ということでご説明いたします。

それを踏まえながらということで、第二部の各論ということで、次回、4回目、5回目、6回目でできれば、皆さんでいろいろアイディア出しをして、ワークショップをしていければなというふうに考えております。その中で施設の部分はもとより、こういった子どもを義務教育小中学校で育てて行けるか、行くか、地域が一体となって、というようなところで、子どもたちの育てたい資質能力は何だろうと、それをもとにしながら特色ある学校づくりについてということで、今後の児童生徒数であったり、学校規模等の観点からということで、また、その義務教育の目的目標の観点からということで、4回目、5回目、6回目のワークショップ、3回ですね予定をしております。その上で、皆様のご意見をいただきながら試案を練り込んで作成をしていければなというふうに考えております。それを示すのが第7回目、8回目というところで考えているところです。まずここまでということで、ご提案いたします。

#### ○鈴木会長

まず、今回の会議の目当てというか、そのあたりが次第の4の(1)に書いてますけども現状と課題、そして計画の位置づけ、これも経緯について理解を深めるということがあります。それでお手元の資料3ページにその答申は、いよいよこの骨太の答申案が出てきたところなんですけども、1についてはもう既に前回の会議で皆さん方の前でご説明をされています。この後事務局の方から各種計画、そしてこれまでの経緯についての説明がありますので、これについてはまず皆さん方にお聞きいただいて、どうであろうかということ、それぞれお考えいただければなというふうに思います。それで、この説明を受けてこの後、次回以降になるんでしょうか、グループワークといいますか、いろいろ小集団でいろいろとどうだろうかと審議をしていただいたのを束ねて、全体としてどうでしょう

かという話になると思うんですね。ですので、今全体ですので結構聞く側ですけども、小さい集団になるといろんな意見が出る部分がありますので、そのあたりで準備をさせていただくということも一つあってもいいのかなと思います。ですので、今日はとりあえずこれから事務局からある説明を聞いて、この次の回にどういうふうな意見を話し合っていこうかという辺りをイメージしながら聞いていただく形になるのかなと思うんですけども、何か答申の骨子、それから今までの流れ等について全体ですね。確認しといた方がいい、または共有しておいた方がいいということがあればお出しただければと思うんですけどもいかがでしょうか。何かあれば遠慮なくお出してください。

大体のイメージ沸いたでしょうか。今回のイメージそして次回はいよいよ小集団でワークショップでいろいろと、これきつと盛り上がるんじゃないかなと思うんですけども、そんな形になるかなと思うんですけどどうでしょうか。よろしいですか。

《はいの声》

一応ですね、この答申案がもうここで出てきましたので、これがもう骨太でこう見えてきましたので、この辺りを踏まえてこの審議会として、諮問を受けたものを答申するという形になりますので、ぜひそのことも含んでいろいろと、お考えいただければありがたいなというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

はい、それではその答申案の2の各種計画における方向性ということで、この後事務局の方から説明をお聞きしたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

#### ○山本教育指導参与

それではお手元の資料ですね、次のページということでA4用紙1枚の部分になります。第2期洞爺湖町まちづくり総合計画の部分について、全部説明すると時間がいくらあっても足りなくなるので要点を絞ってということで、パワーポイントの資料等も含めてですね説明をいたします。

この計画はですね、洞爺湖町町の将来像を描く長期的なビジョンを示しています。地域の特性を生かしながら、持続可能なまちづくりを目指しています。例えば観光業の強化や環境保護の推進、住民生活の質の向上を図るための具体的な取り組みが含まれており、地域の魅力を引き出し、地域資源を最大限に活用することができる、ということがポイントになっているかなというふうに思います。その中で、第4章ですね、心豊かに子どもを育むまちづくりというところが教育の部分に関してということになります。心豊かに子どもを育むまちづくりに対して、未来を担う子どもたちが健やかに成長できる取り組みがあげられております。その取り組みによって若い世代がこの町に定住し続けられることがポイントになっております。

1番2番3番4番ということで、1番が結婚や出産の希望をかなえる環境づくり。2番、子育て支援の充実。3番、学校教育の充実と学習環境の整備。4番、子どもが遊べる環境づくりということで、大きく四つにわかれております。

第1節、左上の部分になります。結婚や出産の希望を叶える環境づくりというところになります。動向と課題、基本方向、主要施策というところになります。課題、未婚者の価値観の多様化、出会いの機会の不足、雇用の確保と育児支援の整備。基本方向としましては、結婚、出産、子育てに対する切れ目のない支援が大切。母親が必要とするサポートを受けられるよう関係機関との連携が必要となってきました。主要施策としては支援制度やサービスの充実、健康福祉センターなどの連携が必要になってくるのが大切です。

左下へ行って子育て支援の充実が第2節にあります。動向と課題という部分では二つですね、核家族化や共働き家庭の増加によって、地域社会全体で子育てを支える体制作りが必要になってくるのではないかとことです。基本方向としては保育サービスの充実、子育て世代の支援のネットワーク作りが必要になってくるのではないかと。必要とするサポートを受けられるよう関係機関との連携が必要になってくる、というふうに思っております。主要施策としては、発達支援が必要な子どもとその家族への支援、食育活動の推進、子育てサロンの設置ということになっております。

右上の第3節ですね。学校教育の充実と学習環境の整備ということになります。ここではですね、確かな学力を身に付け、健康な生活習慣を養うことは非常に重要になってくると思います。また、環境問題や国際化に対応できる教育が求められております。基本方向としましては老朽化した学校施設の改修を進め、例えばICTを活用した事業を推進し、子どもたちの学習意欲を高め、未来に必要な資質能力を身に付けさせていくことが大切です。主要施策として、学力向上のための取り組み、環境教育や国際理解の推進、そして道徳教育の推進と子どもたちが豊かな環境で学び、健やかに成長できるサポート体制作りが大切になってきております。

右下、第4節になります。子どもが遊べる環境づくりということになります。都市化や少子高齢化によって、子どもたちが自由に遊べる場所が減少している中、自然とのふれあいや安全な遊び場の提供は必要になってくると思っております。また、魅力的な遊び場を整備する一方で、地域での防犯活動を同時に強化することも必要になってくるということで考えております。主要施策として、子どもたちが安全に楽しく遊べる環境が大切とともに、地域全体で子どもたちを守り、安心して遊べる環境をどのように作っていけるかが大切となっております。今後の展望ということで、地域全体で子どもを育む環境の整備ということです。

ページをめくっていただきたいと思います。第2期洞爺湖町まち・ひと・しごと創成総合戦略ということで、2020年3月に策定されております。この戦略というのは、人口減少や高齢化といった課題に対応するための具体的なアクションプランです。まち・ひと・しごと、地域・人材・仕事の三つのですね、要素に焦点を当てています。例えば、若者の定住促進や子育て支援の強化。地元企業の支援や新規事業の創出、などが挙げられます。この戦略は地域の活力を維持し持続可能な社会を実現するための具体的な取り組みを示しております。そこで、総合戦略の理念といたしましては二つあります。理念1、地域の魅力

を生かした元気産業が生み出す雇用と、いつまでも住み続けたいと思える生活環境の創造ということで、パワーポイントの方ですね「地域の魅力を生かす」というところを赤字で非常に大事なところになってくるのかなというふうに思います。

二つ目、特色ある資源を活用した地域づくりと関わりを持つ人との連携というところで、特色ある資源、教育であれば教育資源を活用した地域づくりというところがポイントになってくるかなというふうに思います。こういったところを活用しながら充実を図ってですね、次代を担う子どもたちにしつつ、必要な資質能力を育むとともに、郷土愛を育む取り組みにどう繋げていけるかという視点が大切になってくるというふうに考えております。

基本目標ということで挙げております。施策の基本的な方向ということで、四つということでまとめさせていただいております。①番、子育て世代への経済的支援と相談体制の拡充。②番、女性の社会参加の促進。③番、学校家庭地域との連携。④番、学習環境体験の場の創出。というところで、大事になってくるのが①番の相談体制であったり③番の地域との連携であったり、または④番の学習環境体験いうところ。先ほどの子どもの遊び場というところでは、ここも同じような流れになっているのかなということで感じております。

具体的な施策事業、左下の部分です。具体的な取り組みとしましては、子育て世帯での経済的支援と相談体制の拡充があります。出産子育て支援策の充実、出会いの場の創出、などなど経済的負担を軽減するためのサポートが提供されております。また、子どもの医療費無料化や、予防接種費助成など健康面での支援も充実しています。子育て世代の方が安心して子育てに専念できる環境を整えていける仕組みが記載されております。次右下です、具体的な施策・事業ということで、意欲が向上する学びの充実ですね、学びの機会、学習、スポーツ、文化等の充実、そして高校の魅力・充実ですね。4番、まちの魅力や歴史、職業等を学ぶ機会の創出、外国人児童生徒の受け入れ体制の整備、進学希望への支援というのが主な内容となっております。

次のページになります洞爺湖町教育大綱ということで、令和4年から令和8年度ということで、町の教育政策の基本方針や目標を示しております。教育行政の指針となっております。この大綱をもとに学校教育、社会教育、生涯学習の各施策が一貫して進められるよう、地域の意見やニーズを反映させることで、より地域に根ざした教育活動の実現のため、大綱に基づいた計画的な予算配分が行われます。この大綱はですね、教育関係者だけでなく地域全体が共有する目標を示すものであり、これにより地域全体で子どもたちの成長を支える意識が醸成されるとともにですね、地域教育活動を一体的に進めるための重要な指針となっております。基本目標、そして(1)から(7)でお示ししております。最後になるんですけども、洞爺湖町教育を核にですね、今の計画を説明していく中でポイントとしましてはですね、地域の魅力を引き出し、豊富な教育支援を活用していく中で、いろんな活動であったり、人であったり情報も含めてですね、それをどう繋いで紡いでいけ

るか、その中でですね子どもの成長を支えて伸ばしていく。そのために地域住民がどのように関わり合っていけるか、また見守りも含めてということで、そのための環境をどう整えていくかというところで、できればですねその活動がですね、地域の活性化に繋がっていきですね、地域の魅力化、それがですね、移住定住そして人口増ということで繋がっていればと考えております。以上で説明を終わります。

#### ○鈴木会長

どうもありがとうございます。概要ということでいろいろ説明を聞きましたけども、なかなか難しいかなと思うんですけども、とりあえず全体で確認したいのは、3ページをもう一度ご覧ください。この答申案の第1部の中の2の各種計画における方向性について事務局の方から説明があったということです。これも、答申の中に盛り込まれるということで、何でこれが盛り込まれるのかっていうところはその右の方に内容等があるんですけど、そこに洞爺湖町として目指す教育の方向性や子どもたちに育成したい資質能力等の概要、っていう項目があるので、この内容をどういうふうにその計画の中で位置づけられているのか、洞爺湖町としてどういうまちづくり、それがゆくゆくは子どもたちのために、または、その学校教育のためにどう繋がってるのかってあたりがいま概要として説明を受けたというふうに聞いていただきながら、この事務局の方で提示したですね洞爺湖町の教育を確認ということで、ここに全部で七つほどありますけども、この辺りもそれぞれの教育をベースにして、どうなんだろうかっていう議論も一つ、この答申の中にあってもいいのかなというような押さえかな、というふうに思いますので、ぜひそのあたりもちょっと次回の方に含んでおいていただければと思いますけども、今ざっと駆け足のようにして総合計画、総合戦略そして教育大綱ということで概要をちょっと説明を受けましたけども、何かこれについてご質問とか聞きたいことってありますでしょうか。なかなか難しい問いなんですけども、どうですかね。

何か感想とか感じていることでもいいですし、お声いただければありがたいなと思うんですけどもどうでしょう。

#### ○委員

総合計画は令和4年度からってということでよろしかったですか。

#### ○山本教育指導参与

総合計画は2017年から2026年度ということです。

#### ○委員

その中で、例えば進捗率っていうわけじゃないですけど、どこら辺ができてて、どこら辺が難しそうだとかっていうのはあるんですか。2年経って計画や目標を立てたのはいい

けども、どこまで進んだのか解ればいいのかと思うんですけど、目標はとてもいいものだと思いますけど、

#### ○山本教育指導参与

はい、ちょっと今この場では具体的なところは示すことができないので次の会議の前にはある程度こういった部分で進捗状況はお示しすることはできるかなというふうに思います。少しお時間をいただきながらということで、できるだけ調べながらということではいい、お伝えできればと思います。

#### ○鈴木会長

今のは大事な指摘だと思いますよ。1年経って、進捗状況はどうかとか、経過評価みたいなものがあるって、どういうふうな状況なのかっていうのは、これは行政機関としては当然必要な評価なので、このあたりは今事務局が後ほどという形なので、そのあたりでちょっと課題だなというところをちょっと集中的に議論するというのも一つ大事という形になりますよね。

#### ○上林副会長

北翔大学の上林と申します。前回は皆さんに自己紹介もせず大変申し訳なく思います。

私は平成元年から大学卒業して特別支援学校の先生になったんですね。北海道に戻ってきて、ずっと特別支援学校に勤めておりまして、去年学校を退職したので、去年4月から北翔大学で特別支援の科目を教えているんですね。元々道北にある上川郡剣淵町生まれなんです。農業の町です。農業しなかったんですけど、どういう理由かわからないけど、絵本の里剣淵っていう絵本をPRして、最近道の駅ができてですね、そこのパンがおいしいということで、ちょっとあの辺では有名だったんですけど、本当に今は人口3,300人の小学校1校、中学校1校、高校1校の本当に小さな町なんです。私の住んでいた剣淵町も兄が役場に勤めてたんですけど、人口減少をどうするかというのが一番大きな課題なんです。

洞爺湖町さんも同じ課題を抱えているんじゃないかと思いますし、北海道の地域もそういう課題で、先ほど若い世代が定住できる地域を作るっていう、みんな共通した課題なんじゃないかと思うんですけど、でも難しいですよね結構ね。私思ったんですけども、洞爺湖町さんがいいなと思って移住してきた方とかですね、あるいは一度洞爺湖町を離れたんだけど、また戻ってきた方とか、ずっと住み続けている方と、いろんなパターンがあると思うんですけどその方たちが思い持っていて、例えば特に移住してきた方ですね、その理由とかがもしわかれば、それが洞爺湖町さんの魅力なんじゃないかなと勝手に外部にいる者として思ったりしてたんですよね。そのあたりはどのような意見を掴んでるかどうかというのはとても知りたくなりました。



あと、教育についてもですねいろんな施策を行ってるんですけど、大事なのは子どもたちがどう思ってるかじゃないかなと思っていて、今町でやられている政策がですね、子どもたちが本当にいいと思ってやってるのか。あるいは子どもたちがこの町にずっと住み続けたいとか、あるいはまた離れても戻ってきたいとか思ってるとかですね、何かそんな情報があると次回からのグループワークで、いろんな意見が出しやすくなるのかななんてちょっと外部の者として大変申し訳ないんですけど、そんなことは感じていた次第です。よろしくお願いします。

#### ○鈴木会長

今、質問のような話で、移住者の方はどなたでしたっけ。ぜひ皆さまからこの洞爺湖町の魅力というのでしょうか、そのあたりを、何かこうです、っていうことをお伝えできればお願いします。

#### ○委員

そうですね、10年前くらいに越してきていて、最初は北海道に移住先を探していて、妻が函館出身で、僕が北海道で高校時代3年間過ごしていたので、元は神奈川から探していく中で、知り合いの知り合いづて洞爺湖町に知り合いがいるってことで、泊まりに来て見たときの月浦のところから見たあの中島の景色がすごくて、ちょうどあのゴーシュですね、パン屋さんがあるところに曲がっていったときの景色が本当にすごくて、ここで暮らせたらすごいいいなっていうのを感じて、伊達とかも見に行っただんですけど、ちょっと僕らには都会過ぎて、もっと田舎がいいっていうことだったんで、僕らとしては、決め手は景色で、あとは移住してきてる方が僕が来た10年前・11年前ぐらいなんですけど、その頃から既に移住してきてる方が結構いらっしゃったんですね。それは僕が神奈川の藤野っていうところだったんですけども、ちょっと田舎に移住したときに感じたのが、移住者がいる地域って昔ながらの人たちだけがいるコミュニティよりも若者たちを受け入れて、若者世代を受け入れてくれている空気感があって、案の定そのやっぱりそういう空気感があったので、すごく入っていきやすかったです。排他的な雰囲気ではなかったっていうのがすごく良かったなというふうに感じています。

#### ○鈴木会長

なるほど、どうもありがとうございます。

#### ○委員

私は23年前に移住してきたんですけども、はじめて洞爺湖に来たとき、昭和新山から洞爺湖に降りてくる道を通ったときにやっぱり感動しました。開けた景色というか、ここに住みたいねなんて言ってたんですけども、そのときは壮瞥だったんですけど、洞爺湖

温泉で商売をしているので、美容師しているので、引っ越してきて洞爺湖町民になったんですけれども、そうですね、やっぱり子どもたちも保育所から高校まではここで育って、今は地方に出てしまったんですけれども、やっぱり住みやすい、気候もいいです住みやすいなって感じています。

#### ○委員

私は10年前に洞爺湖町の地域おこし協力隊で移住してきましたんですよね札幌から。子どもが1歳で移住してきてるんですけど、洞爺地区に越してきてすごくラッキーだったなと思うのが、すごく子育てに特化した地区であって、地域全体で子育てをしているっていうイメージがすごく強い地区でした。保育所もすごい特色ある感じで、ずっと行事が続いていく中で親御さんの参加率がすごく高いっていうのと、今日も参観日だったんですけど両親が揃って観にくるとか、両親が他の子どもも一緒に見るっていうのが、すごく札幌から越してきてすごく異様な雰囲気というか、自分の子じゃない子どもも自分の子どもっていうふうな見方をしていたりとか、その町の行事に関して、自分の子どもたちが卒業した後でも親御さんたちが学校とか保育所を気にかけてくれたりとか、それに対して支援をしてくれてるっていうのと、あと一番感動したのが小学校の給食、洞爺の給食だったんですけど、農家さんが持ってきてくれた野菜をそのまま使用して食べることができたりとか、あと教育委員会さんの方とかでもその夏祭りをやってくれたりとか、地域の農家さんが子どももいないのに手伝ってくれてるとかっていう、その子育て環境がすごくラッキーだったなっていうのを口コミでまた広がって移住者が増えてるっていう状況と、あと各地域が年々子どもが減っている中で、とうや小だったりとか保育所に関しては増えたんですけど、子どもが減らないっていう不思議な現象が、今後ちょっと減る予想ではあるんですけど、もうここ10年はずっと子どもが減ってないで、移住者がどんどん増えてきてるっていう、ずっとこの洞爺村が培ってきて洞爺湖町になって、それでも続いている子育ての仕方っていうのがすごくありがたくて、自分的には移住してきてよかったなと思うポイントでした。

以上です。

#### ○鈴木会長

どうもありがとうございます。

今、それこそこちらの方に移住といいますか、来られた方のお話をですね、お三方お聞きしましたけど、まさに今、答申の中の項目にある、洞爺湖町として目指す教育の方向性っていうんでしょうかね、その辺りと子どもたちに育成したい資質能力もやっぱこういう自然環境とか、こういう豊かさだとか、そういうところがあるよっていうことも踏まえて、これからの洞爺湖町の子どもたちをどうするかっていうあたりなんかも、次回いろいろと皆さん方それぞれの立場からご意見だとか、いろんなやり取りをしていただくと、何

かこの答申に付随していくような要素が出てくるのかなと思いますので、ぜひそこはまた次回に向けてということでイメージをちょっと作っていただければというふうに思います。

あと、どうでしょうか。何か今のお話を受けて感じたこととか、思いとかあればお話しいただければと思いますけれども、どうでしょう。

移住者の方々の話を聞くとやっぱりそのまちづくりというか「まち」というキーワードが非常にやっぱりあって、やっぱり住みやすいとかいうような子育て環境が整っているだとかっていう、そのまちづくりが非常にこの計画戦略の中にもちりばめられているので、この辺りちょっとピックアップしながらですね議論するのもまた一つかなというふうにちょっと思って、私なりに聞いていました。

よろしいですか。

《なしの声》

それでは今答申の方の2の各種計画における方向性についてですね、事務局の方から説明を受けて、ちょっと皆さん方と共有し合ったという形で、これでまずはその部分を終わりたいというふうに思います。

それでは次に、次第の5の(2)になりますけれども、これまでの経緯ということで、3ページの答申案でいくと3ですね、これまでの経緯ということでここに1から4まででありますけれども、このあたりの説明を事務局の方でよろしく願いをいたします。

#### ○細江教育推進課長

それでは2のこれまでの経緯につきましては、私の方からご説明をさせていただきます。

洞爺湖町の小・中学校における子どもと学校のあり方についての提言についてですが、平成24年9月に洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会をPTAの代表者6名を初めとする12名のメンバーにより設置され、約5ヶ月間の協議の結果、平成25年1月に洞爺湖町子どもと学校のあり方検討委員会より、今後の方向性について提言の提出を受けております。資料としては7ページを説明させていただいております。平成25年1月にあり方検討委員会から、児童生徒の減少や学校の小規模化は教育環境、学校運営に様々な問題が生じることに繋がる。学習面や学校活動の充実を図り、子どもたちにとってより良い教育環境づくりのためには、洞爺湖町の現状を見据えたうえでの適正配置を検討していく必要がある。また、町内の各学校施設では老朽化が進み、その対策も検討の時期である。というような内容の提言を受けております。

1番の本委員会における検討の方向ということで、町内には当時3小学校と3中学校があり、本委員会において、個別の学校の具体的な配置を検討・議論し、基本方向を提言としてまとめることは困難であるということから、町全体に共通するより望ましい学校のあり方の一定の基準作りを行うこととしたということで、検討の視点を1から6の視点とし

て示されております。

続きまして2番の学校教育環境を取り巻く現状と課題ということで、児童生徒の数の推移としては、平成24年度の段階では、虻田本町地区、洞爺湖温泉地区および洞爺地区に小学校、中学校が各1校ずつ、計6校の小・中学校があり、児童生徒数は人口の減少に比例して減少しており、平成18年の町村合併後の人口減少は進んでいる状況でありました。この時点において、今後の推移は、総体として横ばいから減少が見込まれるということを示されております。少人数学校・少人数学級の課題としてというところでは、小規模校のメリットとしては、1人1人に応じたきめ細かな指導、異学年交流が大切にされる発達障害等の児童生徒を区別しない、インクルーシブ教育が進めやすいなどがあげられており、複式学級においては多くの自学自習の時間により、自ら学び考える力の育成が図られるとされております。デメリットといたしましては、大きな集団での社会的経験の機会が少ない、グループ活動も固定化される、競争意識が芽生えにくく切磋琢磨の機会が少なくなる、中学校では部活動においては団体競技が難しくなるなどの影響も課題に挙げられておりました。また、一定規模以下の学級数になると教員数が少なくなり、特に中学校においては、教科担任の確保ができなくなり、教科指導にも支障が生じるとも考えられております。

次に、学校施設の老朽化および未耐震状況としては、洞爺湖温泉小学校以外の施設は全て昭和に改築されたもので、老朽化が進んできている。特にとうや小学校は、環境的にはある程度維持されているが、虻田中学校は維持補修はしているものの、老朽化は著しい状況である。しかしながら、施設の改築、移転等には多額の費用が必要であり、町の財政状況の健全化団体を脱却したばかりであり、十分な財政基盤がない中では、効果性、効率性と町政における財政投資のバランスもしっかりと考慮しなければならないと示されております。その上で、取り巻く現状と課題を把握し、子どもたちにとってより望ましい学校作りには次の目標が掲げられております。目標としてはこの二つ、育てたい子ども像の共有、どのような学校であるべきか、というところが示されております。

3番目の適正配置を考える視点といたしましては、学校種別の視点として、小学校教育、中学校教育を区分してそれぞれで検討する必要がある。2番目の検討対象校の視点としては、町内全6校を検討対象とするべきである。3番目の学級数の視点としては、小学校中学校ともに望ましい学級規模、原則として存続する学級規模、原則として当該統廃合を検討すべきである学校規模の学級数がそれぞれ示されております。その中で児童生徒数の視点として、学級規模検討にあわせて児童生徒数の教育環境に与える影響を考慮すべきである、と示されているところでございます。

4番目といたしましては、通学時間の指定については、特定の学校を基本とすることは検討せず基本的な目安を定めたということから、小学校、中学校ともにスクールバスの利用で45分程度と、当時は示されております。

5番目の地域性の視点としては、教育委員会が統合しなければ教育上の効果が低下して

行くという方向性を持つ場合、地域へしっかりと説明と理解を求める姿勢が必要であり、保護者、地域住民の声を聞くことが大切であると示され、地域性の視点としては、地域事情を十分に考慮し、地域の声を尊重するべきであるということを示されています。

6 番目の施設整備の視点としては、学校施設の整備と適正配置ということで、非常に難しい問題であり、コストパフォーマンスを無視することなくよりよい教育環境作りを進めていくことが必要とされ、施設整備の視点として安全のための施設確保、適正配置、財政の適正運用を総合的に検討すると示されました。

まとめといたしまして、行政においてはあり方検討委員会の提言を踏まえ、より効果的な効率的な手法等について検討し、実施をしていくことで時代を支える子どもたちが誇りを持てるまちとして、バランスある発展を推進していただくことを希望する、との提言をいただいているところでございます。7 ページの洞爺湖町の小・中学校における子どもと学校のあり方についての提言の概要については、これで説明は終わらせていただきます。

続きまして、8 ページの洞爺湖町内小中学校の適正配置計画について説明させていただきます。こちらは今説明させていただきました。あり方検討委員会からの提言を受けて、その後に適正配置計画を作ったものでございます。平成 25 年 1 月に洞爺湖町の小・中学校のあり方検討委員会より提言を受け、個別の具体的な配置ではなく、全町に共有する一定の基準作りとして行われ、学校規模、通学時間、地域性施設の安全性などから、適正配置を検討する際の目安となる基準を示していただいております。よって、適正配置に取り組んでいく際には、地域とのしっかりした議論を踏まえることとされたことから、そのような考えの中で進めてきております。

続きまして、1 番の保護者との懇談会の開催概要として、保護者との懇談会を平成 26 年 2 月から平成 26 年 5 月にかけて、町内の 4 ヶ所の学校で開催しております。開催時に出された意見といたしましては、現状維持であるべきとの意見は大多数でありましたが、将来的には統合も考えるべきとの意見もあったようです。

続きまして、2 番の小中学校の児童生徒数の現状と推移です。平成 26 年 4 月の時点での推移となっております。三つの小学校は平成 26 年 4 月の段階と比べ平成 31 年度には児童数は減少する。温泉小学校は二つ、とうや小学校は一つの複式学級が現状から平成 31 年まで続くことを推計されております。中学校といたしましては、虻田中学校および洞爺中学校は現状に比べ、平成 31 年には生徒数は若干減少するということが示されております。

続きまして 3 番目の小中学校の課題等というところでは、今後の児童生徒数の減少が見込まれる中、町内の小・中学校は、洞爺湖温泉小学校を除き、古い年代に建設されたものが多く大規模改修、大規模修繕を要する学校もある。ハード面においては、温泉小学校を除き、耐震化工事や大規模改修など、何らかの多額の費用を要する課題を抱えているとしております。

4 番目の適正配置に関する考え方として、町内小学校における児童の減少がなだらかに

進む傾向にあるが、小学校についてはより身近な地域の中で存続することが基本的に望ましいと考えるが、将来的に児童数が著しく減少した場合は統合もやむを得ないものと考えられており、中学校といたしましては、町内中学校における生徒数は、虻田中学校を除く2校では、平成31年度にはそれぞれ30名を割ることが想定されておりました。今後の生徒数を踏まえると、通学時間の問題が解消されれば、将来的には町内において中学校は1校が望ましいと考える、とされております。

5番目の教育環境の整備というところですが、ここに関してはこのたびの適正配置において、小中学校ともに新しい校舎を建設するということは考えておらず、既存の校舎等を活用することを念頭に置いている。洞爺湖温泉小学校を除き、耐震化工事や大規模改修など、何らかの多額の費用を要することが課題とされ、洞爺湖町全体の耐震化工事が完了したら、虻田小学校の大規模改修、そして各小中学校のグラウンド改修等について計画を立てて実施する必要があるとされております。このような形で、洞爺湖町内小中学校の適正配置計画を平成26年12月に作成しております。

続きまして、洞爺湖町の学校施設長寿命化計画を説明させていただきます。こちらは一緒に別紙となっている、長寿命化計画の概要版に沿って簡単に説明させていただきます。洞爺湖町の公共施設の約2割を占める学校施設は、築30年以上の施設が7割と老朽化が進んでいるため、これらの指針に基づき施設の今後の老朽化対策や維持管理について検討し、適切な施設改修やさらにその有効活用、財政負担の平準化などを進めていくことが求められております。学校施設の老朽化状況等の把握をし、優先順位を勘案した学校施設長寿命化計画を作成してまいりました。本計画の計画期間としては2019年、平成31年から2028年の平成40年の10年間の計画となっております。社会情勢の変化や、必要に応じて概ね5年ごとに見直すこととされております。今後審議会より答申をいただいた後には検討を進めていく必要があると考えております。本計画の対象施設は小学校3校、虻田小学校、洞爺湖温泉小学校、とうや小学校、中学校2校、虻田中学校、洞爺中学校の5校としております。

第2章の学校施設状況と課題、(2)の児童生徒数及び学級数の変化、という部分では、洞爺湖町の児童生徒数は、先ほどからお話しているとおり減少傾向となっており、将来的に小学校児童数は横ばい、中学校生徒数は減少傾向と推計されております。その中で、表を見ていただきますと、2024年の児童生徒数と今年度の現状と比較して数字でお伝えさせていただきますと、表上では2024年の小学生の人数が264名となっております。今年度の小学校の児童数は258名です。中学校は表上では132名、現在の今年度の状況としても132名となっており、合計として表上では396名ですが、現状、本年度の児童生徒数は390名で、推計数とあまり変わらない状況であることがわかっております。

続きまして(4)の学校施設の老朽化の状況としては、現地調査に基づき学校施設の老朽化状況を整理した結果、小学校については温泉小学校は概ね健全な状況にあります。虻田小学校、とうや小学校は、一部の建物において、劣化が進んでいる状況が見られます。

また、中学校においては虻田中学校の劣化が著しい状況が見られ、一方洞爺中学校では体育館の屋根や内部仕上げの劣化が進んでいますが、他の建物は概ね健全な状況と示されております。施設の課題としては次に3つの課題が挙げられております。児童生徒数の動向を踏まえた施設整備、老朽化が進む学校施設の安全性・快適性の確保、学校施設の維持管理の適正化となっております。

第3章の学校施設整備の基本的な方針等について説明させていただきます。基本的な方針等が次の1から4に示されており、4番目の改修等の基本的な方針の(2)として目標使用年数、改修周期の設定がされており、建物の劣化状況、今後の施設整備にかかる費用の見込みなどを踏まえ、今後の学校施設の目標使用年数、改修周期を表に設定しております。

第4章といたしまして、学校施設の長寿命化計画では優先順位をつけた考え方により評価を行い、計画期間内における各施設の対応方針を検討することとさせていただきます。続きまして、長寿命化のコスト、維持・更新の課題として、長寿命化を図る際の課題としては、国における財政措置等の動向把握に努めるなど、長寿命化を実施していくために必要な財源確保が必要です。社会的な動向、洞爺湖町における政策や財政状況など施設整備に関連する状況の変化に対応した取り組みが必要となるため、本計画について、必要に応じた見直しを行う必要があると示してございます。施設の長寿命化計画の概要版については以上となります。

続きまして、9ページの洞爺湖町学校給食センターの今後の方向性についての提言書について、簡単にご説明させていただきます。平成18年3月に虻田町と洞爺村が町村合併をし、新町洞爺湖町が誕生して以来、給食センターにおいてはそれぞれの町村で稼働していた虻田給食センターと洞爺給食センターを洞爺湖町町へ引き継ぎ、2施設の体制でこれまで運営されており、しかしながら、児童生徒数の大幅な減少や施設設備の老朽化などを要因として、洞爺湖町学校給食センターの統合を含めた今後の方向性について、洞爺湖町学校給食センターに係る検討委員会において調査検討を行い、令和4年3月に提言書を教育長に提出されております。提言書の中身といたしましては、本委員会における検討に当たっての視点・考え方を7つの視点・考え方に沿って検討を進めていただいております。検討の視点・考え方の1つ目としては、給食の提供数の想定について、2番目として複数案の比較検討について、3番目としては学校給食に求められていることに対応できる施設での検討。また4つ目、各案の事業費の軽減を念頭に検討を進める。5つ目としては、運営経費の節減効果が得られる内容での検討。6つ目として、所在地は防災指定区域外で検討を進める。7つ目として、各案の経営形態は直営継続を念頭に検討する、という形において検討を進めていただいたところです。検討を進めていただいた状況といたしましては、2番の視点・考え方に基づく検討の進め方、検討状況に1から7の状況を示してございます。まとめといたしましては、洞爺給食センター施設の活用をすることとした検討案その2を今後の方向性とすることで、協議が位置した結果、提言を受けたところで

ございます。提言を受け、令和4年度より給食センター統合に向けて協議を重ねてまいりましたが、現段階での状況を、この後お伝えさせていただきたいと思います。学校給食センターの統合の時期を見送るということで教育委員会の方針を町民の方、保護者の方にお伝えしているところでございます。教育委員会の方針としては、現在進めていた学校給食センターの統合について、基本設計により当初見込みより面積および価格が予定していたものより大きくかけ離れているため、統合の時期をこの度見送ることといたしました。経過の報告として、昨年末より給食センター統合の見送りについて、学校給食運営委員の方や、これまで統合の協議に携わっていただいた町民の方々に、統合の見送りを説明した結果、理解を得ていただいております。今後の対応といたしましては、教育行政審議会に諮問をしているので、その答申を踏まえて、一定の方向性を示していきたいと考えております。見送りに関しては、保護者地域の方々に3月下旬、4月下旬の計3回、虻田地区、洞爺地区で説明会を実施したところでございます。

以上でございます。

#### ○鈴木会長

いきなり具体的な内容がいろいろ出てきました。まず、あり方提言。これは平成25年に提言されてます。それから、適正配置計画は平成26年。大体今から10年ほど前にそれぞれ提言されている。それから、給食センターの方は令和4年ということで、直近ですけども事務局からあるように、一応見送るということでこの諮問の中に位置づけられているので、この諮問会議の中で審議会の中でどういう方向性かっていうのも一つ検討していかなくちゃいけないっていうところ。あと、長寿命化については平成31年ということで、これ以前2回目に施設を見たときにいろいろと話題になりましたので、そんな形で皆さん方と共有できてるのかなと思うんですけども、まず、既に10年ほど前から各組織の中で、提言をされているということが、今説明を受けたという形になりますけども。

今の説明の中で何か確認しておきたいとか、話題ちょっと共有しておきたいなっていうのがあれば次回ですね、いろいろ議論をする中で素材として必要な要素があればということであつとお出しいただければと思うんですけどもいかがでしょうか。

#### ○委員

学校施設の現状と課題っていうところの、学校施設の老朽化状況っていうところで、前回虻田地区と洞爺地区を周らせていただいたんですけど、体育館の雨漏りが虻田地区もあったりとか、あの洞爺地区もあったりすると思うんですけど、その辺で今後例えば火山性の地震が起きたりだとか、そういった際に本当に大丈夫かどうかの点検だけでも計画とかって入ってるのかなっていうのは気になるんですけど、大規模改修だったりとかはもちろんまた何年も先っていう話にはなるとは思うんですけど、あの下で子どもたちが体育館を使って、本当に安全なのかどうかっていうところの点検だけでも早めの計画というか、



予定があるのかどうかっていうのは気になるんですが。

○鈴木会長

そのあたりは事務局どうですか。

○細江教育推進課長

今の時点ではまだ何年度に点検を実施するという計画には至ってない状況です。ただ、今の体育館の雨漏り等々の繋がりからいきますと、虻田中学校が今回虻田小学校の校舎を使うということで6月に地域協議会を立ち上げまして、虻田中学校に関しては一応目途としては、令和8年4月を目途に虻田小学校の校舎を使うという形で移転に向けての協議会を設置し、そこで検討している最中でございます。内容としては6月に1回目の会議が終了して、その中で広く保護者の方とか児童生徒のアンケート調査が必要だということで、アンケート調査をしております。そのアンケートを集約している中では、反対意見というのは無かったので、この後7月にまた2回目の会議を予定しておりますが、その中でまた検討していただいて方向性を掴んでいきたいなと思っているところです。ですので、虻中の雨漏りに関しては修繕する予定は今後ない状況にあるということです。

○鈴木会長

いかがですか。

○委員

前回見たのってどっちでしたっけ、小学校と中学校。

○鈴木会長

小学校です。

○委員

小学校がひどい方でしたよね。

○細江教育推進課長

小学校はひどくない方です。ひどいのは中学校ですが写真しか見てないです。

○委員

この資料の一番下にあるバルコニーの写真が虻田中学校です。これは雨漏りどころじゃありません。はっきり言って人が乗れない状況なんで、ひどいです。すいません。

○鈴木会長

今委員のご指摘のように、有珠山噴火っていうか災害対応っていうのがね、やっぱりこれからどうなのかっていうのもちょっと心配っていうのは検討要素っていうか、ちょっと踏まえておかなきゃいけない部分でもありますよね。

施設の老朽化のことについてちょっと共有したいというご意見でしたけどどうでしょうか。

○委員

確認ではあったんですけども、私教育ビジョンの方も委員会に入ってて、そのときに子どもの数について調べてもらったっていう経緯があったんですよ。この中で少しずつ生徒数っていうか子どもが減ってというような報告があるんですけども、実は平成 29 年の時点で、洞爺小学校の生徒数ってのは 61 人だったんですけども、一応今の段階で 63 人で、令和 8 年度の予定で 65 人というふうに、要は先ほど委員さんが言ったように、ずっと人数が減っていないという状況が洞爺はあるんですね。いや実際減ってきてるのは虻田小学校で 227 人、平成 29 年度のが、令和 8 年は 145 人という形です。温泉小学校は 35 人だったのが今は 34 人。令和 8 年度で 34 人で、令和 4 年度は 39 人と増えてるんですね。なんというか地区ごとでやはり子どもの数っていうのが保たれている部分とちょっと減ってる部分っていうのを、一緒にたに洞爺湖町全体で見ると減ってるっていうふうにはなるんですけども、そういうふうに地区ごとにわかれてしまうとそういう状態があるっていうのをちょっと認識っていうか皆さん理解していただきたいなというところですね。

○鈴木会長

どうもありがとうございます。私も今の話を聞いてそうなんだなと。いや実は私もですね、先ほど提言が平成 25 年、要するに 10 年前に提言されたときの、いわゆる予測されている子どもの数の減り方であり、適正配置だとか今後の学校のあり方っていうのを検討されていたんじゃないかなと思うんですね。それが今の状況でどれだけの違いがあるのかっていうのをちょっと知りたかったのが、先ほど説明がありまして、そんなに変わっていないところなので、かなり見通しを持っての提言なんだなっていうふうにちょっと思ったんですけど、今の委員の話はやっぱりその地区によってやっぱり変わっていない、ちょっと減ってるっていうそういうこともある程度想定した上で、いわゆるこれからのあり方であるとか、今後どうするかっていうこともちょっとこの提言も下敷きにしながら見ていかなきゃいけない要素にはあるのかなって聞いてて思ったので、ぜひそのあたりもそういう視点で見ていただくのも一つなのかなというふうに思いました。

あとどうでしょうか。

○委員

委員がお話していた洞爺地区での子育ての環境と、増えてきているっていう、その道内でいくつも見た中でいくと、局所的に洞爺湖町で見ると、僕は虻田地区で子ども食堂というのをやっていて、虻田の子どもたちの様子を感じているんですけど、あそこは確かに道内全体として同じような形で減っている感じなんですけど、今後を見据えたときに統廃合っていう話になってくると、やっぱり規模の少ない温泉小学校だとか洞爺中が対象になってくるけれども、実はそこって局所的に道内でも人が増えてくる要素がある場所の教育だとか給食だとか、良きものをなくしてく可能性があるっていうことはちょっと重要に考えなくちゃいけないと、長期的に見たときにそこが小さいけれど成長する要素なのだとすると、そこは重要に考えるべきなのかもしれないなっていうのはすごく2人の意見を聞いて感じました。

#### ○鈴木会長

ありがとうございます。まさにこれからの将来を見据えたところでの教育をどう考えていくのかっていうあたりがこの洞爺湖町には地区であるんだなっていうところがあるので、そこはぜひ皆さん方それぞれの、いわゆるその専門的な識見からいろいろご議論していただく、またはPTAとか保護者の方もいますので、保護者としてっていうこともあるのかなっていうので、ぜひその辺りは次回のその中でですね、いろいろとちょっとお話されるのもいいのかなってすごく思いました。

#### ○細江教育推進課長

今何名かの方から、地域ごとの人数についてということでお話をいただきました。次のグループワークにもその辺が重要な資料になってくるのかなと思いますので、次回の会議のときには、各地域ごとの今後の推計についても児童生徒数を出していきたいと思っておりますのでご了承ください。

#### ○鈴木会長

資料も次回出てくるみたいですので、あといかがでしょうか。

私は常にこの答申の方に戻りながらいろいろ考えて、いろいろ行こうと思ってるんですけど、今のこれまでの経緯というのは3ページのところを見ると既にもう提言されているものですから、これを覆すようなことはできないので、あくまでこれをベースとしながらも、今の状況はどうなのかっていうことを議論するって形だと思うんですね。ただ、内容については過去の経緯についての概要を込めて繋げるということですので、このあたりはぜひ今のこの提言を踏まえて、どういうふうに繋げていこうかっていう辺りもですね、ぜひ、その辺りは次回の方のワークショップの中でもお話しいただけると、それも踏まえて内容がですね、答申の中に盛り込まれていくのかなという感じがしますのでよろしく願いしたいなというふうに思います。

あと、この給食センターのやつは、この審議会の中でも一応方向性みたいなのを議論するってことでよろしいでしょうか。

○事務局

はい

○鈴木会長

この給食センターのあたりの話もですね、これも含めてっていうことがこれからの話はちょっと重たい話がちょっと出てきたのかなというふうに思いますけれども、そこら辺はまたいろいろとご議論できればと思います。

よろしいでしょうか、その他に全体で共有しておかなきゃならないことはありませんか。

○委員

小中学校の子どもと学校のあり方についての提言とかですね適正配置、それから長寿命計画もですね、検証の時期が来てると思うんですよ。この審議会で作るっていうものではないと思うのですが、これも進めていただかないと最終的な答申の中に盛り込んでいくことってできないんじゃないかと思う。検討をお願いしたい。

○鈴木会長

はい、ありがとうございますよろしいでしょうか。

提言が10年ぐらい経ってますので、そのあたりの今段階の状況がどうなのかっていう辺り、あと先ほどまちづくりの計画の中でのいわゆる年度年度の進捗状況がどうなのかってあたり、かなりやっぱり評価情報があって、今後どうするかっていう議論がこの場でできれば、よりいろんな内容を答申の中に盛り込めるのかなっていう、そんな形が今各委員の中から出されてるのかなというふうに思いますので、すぐに出てくる評価もあれば、結構難しい評価もありますので、そこら辺は事務局の方でいろいろとやり取りしながらですね、考えていただければというふうに思います。

あとは、よろしいでしょうか。

《なしの声》

この内容については終わりたいと思います。

会議次第の6ということで、その他ですね、これについて事務局の方、よろしく願いをいたします。

○細江教育推進課長

今回の会議の予定ですが、7月下旬を予定しております。また改めて日程調整をさせて

いただいた上で、ご案内をさせていただきたいと思いますので、参加のほどよろしく願いしたいと思います。次回以降ですが、先ほどから何度か話の中には出てきておりましたが、これまでの会議で説明させていただいた現状と課題、各種計画上の位置づけ、これまでの経緯を踏まえて、皆様によるワークショップを実施したいと考えております。内容については、町でどのような子どもたちを育てたいか、必要となる資質能力とは、また、そのための教育内容の教育施設について、グループにわかれて皆さんからのご意見を出していただき、方向性を探っていただければと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

以上です。

#### ○鈴木会長

7月末ということで、短い1ヶ月もないぐらいのあれですけども、その中で今度は実際に皆さん方にグループになっていただいて、いろいろ想いを出し合いながら一つのものを作り上げていくという形になりますのでよろしくお願いをいたします。

はいそれではよろしいでしょうか。

《なしの声》

それでは以上をもちまして第3回目の洞爺湖町教育行政審議会の方を終了したいというふうに思います。円滑な審議ご協力いただきましてどうもありがとうございました。

以上で終わりたいと思います。